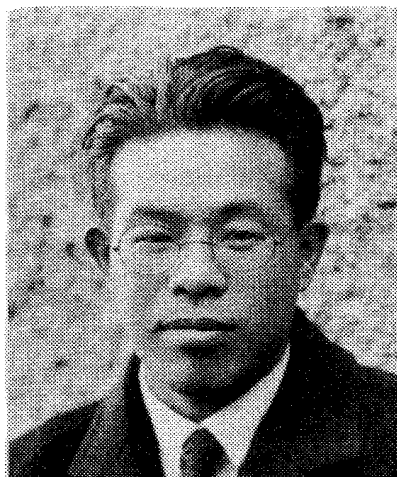


# 一 北野大吉



(高等商業学部  
第二三回卒業記念アルバム  
一九二八年)

に戻り、一九四一年に辞し、上海東亜同文書院大学教授に就任までの間、本学の高等商業学部教授として勤めた。在籍中、北野は教育・研究に加えて、相撲部の顧問として人望厚く、今なお当時の学生から慕われている。

北野大吉は神戸市立橘尋常小学校を卒業後、関西学院中学部に入学、一九一七年に優秀な成績で卒業。官立神戸高等商業学校（現在の神戸大学）の本科第二学年を修了後、一九二〇年には東京商科大学に入学し、一九二三年に卒業後、ただちに母校

## I はじめに

関西学院大学図書館に納められた特殊文庫に柴田文庫がある。「その大要を挙げれば、ロバート・オウエン関係、ウィリアム・モリス関係、メリー・ウォルストンクラフト関係、およびその他の文献を含む二五六部二九八冊であり、決して大量ではないが、特色ある珠玉の小文庫である」<sup>(1)</sup>。この文庫の収集者が北野大吉高等商業学部教授である。

「ロバート・オウエンやメリー・ウォルストンクラフトの研究で名高かった故北野大吉教授が、御親交深かった同窓の故柴田享一氏の篤志による文献購入費を基にして、昭和二年<sup>(2)</sup>英国留学の間に収集された文献集であって、その後柴田氏の御了承のもとに、本学図書館に所蔵を移し、その名を冠した特殊文庫として収蔵されてきたものである」<sup>(3)</sup>。

堀によれば、「教授は、東京商科大学（現在の一橋大学）での故上田貞次郎博士の門下生であって、師と同じくイギリス産業革命史の研究に特別の興味をもっていた。しかも、それは経済史的研究というよりも、むしろ思想の面からする社会史の研究に重点がおかれていたようである」<sup>(4)</sup>。北野によれば、その研究は「一九世紀後半の社会状態を見

んとしてウィリアム・モリスを研究し、同世紀の前半を見るためにロバート・オーエン…、一八世紀の後半に於ける社会状態を見んとしてウィリアム・ゴドウィン…、ゴドウィン夫人としてのメリー・ウォルストンクラフト<sup>(5)</sup>を対象とした。

このような関西学院高等商業学部教授時代にあつて、北野は「相撲部の顧問として格別に力をつくされ」、「当時の学生スポーツのメイン・イベントであつた堺大浜で行われる全国学生相撲選手権大会で、優勝あるいは準優勝の成績を挙げて学院の名を高からしめた戦果のかけには先生があつたのである」。「性豪毅闊達、青春の血に燃える学生の純真さを愛した」<sup>(6)</sup>からこそ、学生も北野を生涯の師として慕つたのである。

『東亜同文書院大学史』もまた北野について以下のように記している。「北野大吉教授は中山伊知郎博士とも親交があり、『英国自由貿易運動史』が博士論のテーマであつた。小さい目とは対照的な分厚い唇から、ゆっくりかみしめるような口調が流れる。ロバート・オーウェンが究明する紡績女工の哀史、東印度会社の侵略場面など、印象に残る名講義であつた」<sup>(7)</sup>と。

## II 略歴・業績一覧

一八九年 六月二六日

神戸市（北野岩松・ステの長男…神戸市兵庫古湊通一丁目一一）に生まれる。

一九二二年 三月

神戸市立橘尋常小学校卒業

一九二七年 三月

関西学院中学部卒業

四月

官立神戸高等商業学校（現・神戸大学）入学

一九二〇年 三月

官立神戸高等商業学校本科第二学年修了

四月

東京商科大学入学

一九三三年 三月

指導教官上田貞次郎  
東京商科大学卒業

四月

卒業論文「ウキリアム・モリス」

関西学院高等商業学部教授。この当時、北野は神戸市葺合区（現中央区）上筒井通一丁目一四番地（原田の森キャンパスの近く）に住んでいた。上ヶ原移転後、仁川に転居した。<sup>(8)</sup>

五月 「ニウトン先生を送る」『学生会時報』

第七号

二月 『芸術と社会（モリス研究）』『商光』

（関西学院高等商業学部・商学部機関誌）第二卷第一号

一九四四年 四月 「オウエンの境遇論」『商光』第二卷第

二号

五月 『芸術と社会』（更正閣）

二月 「工場法運動の先駆者としてのロバー

ト・オウエン」『商光』第二卷第一号

一九四五年 九月 邦訳『基督教社会学』（A.J.Penty）

（聚英閣）

一〇月 「自由なる学園の樹立」『関西学院時

報』第一五号

二月 「オウエンの新しい村」『商光』第四

卷第一号

三月 「中世主義者の機械観」『商学会雑誌』

（関西学院高等商業学部・商学会機関

誌）第七号

一九四六年 六月 「オウエンの労働交換所を論ず」『商

学評論』（『商光』改題）第五卷第一号

九月 「大組合主義の提唱者オウエン」『商

学評論』第五卷第二号

一九四七年 三月 「オウエンの新道德世界を論ず」『商

学評論』第五卷第四号

三月 「ロバウト・オウエン」（同文館）

九月 「普通教育の一先覚者としてのロバー

ト・オウエンを憶ふ」『商学評論』

第六卷第二号

三月 「オウエンの境遇論に於ける五大根

本的事実」『商学評論』第六卷第三号

一九四八年 四月 八日 受洗

四月 「出発に際して学院の大学問題を思う」

『関西学院新聞』第三四号

五月 アメリカ經由イギリス留学（帰国予定

翌年四月もしくは九月）<sup>9)</sup>

一九四九年 四月 「僅か一週間で数百冊の文献蒐集」『関

西学院新聞』第三九号

六月 「オウエンと宗教問題」『商学評論』

第八卷第一号

六月 「ケルムスコット・マノア訪問記」『商

学会雑誌』第一八号

六月	「労働党内閣首相ラムゼー・マクドナルド氏を訪ふ」『関西学院新聞』第四一四号	六月	「チャーティズム前史としての倫敦通信協会史」『商学評論』第一一卷第一号
七月	「頑張ってくる」『関西学院新聞』第四二二号	六月	「五島茂氏著『ロバート・オウエン著作史』」『関西学院新聞』第七七号
九月	「メリー・ウォルストンクラフトの女権弁護論」『商学評論』第八卷第二号	一九三三年	中学部五年の公民科担当
九月	「飽くまでに慎重に実現は三年後か？」 <sup>(7A)</sup>	九月	「故今川尚教授著『分配学説研究』を読む」『関西学院新聞』第九二二号
一九三〇年九月	「関西学院新聞」第四四号	九月	「今川教授記念出版予約応募者に告ぐ」
	「バーク駁論としての人權論ウォルストンクラフト研究」『商学評論』第九卷第二号	一九三四年十月	「関西学院新聞」第九二二号
一〇月	「何が彼らを斯くせしめた?」教授お国自慢探訪記」『関西学院新聞』第五七号	三月	「モリスの人及思想」モリス生誕百年記念協会『モリス記念論集』 <sup>(11)</sup> (川瀬日進堂書店)
三月	「婦人運動の開祖メリー・ウォルストンクラフト」 <sup>(10)</sup> (千倉書房)	三月	「ラディツ研究」『商学論究』(関西学院商学研究会機関誌) 第一号
一九三二年二月	「ピータールー虐殺事件の社会経済史的考察」『商学評論』第一〇卷第二・三二号	一九三六年二月	邦訳『貿易思想史』(A.J.Penty) (言海書房)
一九三三年五月	「猪谷善一郎氏著『世界経済学要論』	二月末	東京商科大学へ内地留学。家族で東京移転(一三七三年三月)
		三月	「英国自由貿易運動史上に輝く反穀物

一九三七年 四月  
法運動（一）『商学論究』第七号  
大吉のみ仁川に戻る。

二月  
「英国自由貿易運動史上に輝く反穀物

法運動（二）『商学論究』第八号

六月  
「英国自由貿易運動史上に輝く反穀物

法運動（三）『商学論究』第九号

二月  
「マクドナルド元首相の死」『関西学院

新聞』第一二七号

一九三八年  
腎臓病を患う（甲東園在住）

一九三九年 一〇月  
「ウィリアム・ピットの通商政策」『商

学論究』第一七号

一九四〇年 二月  
「階級的対立として見たる『チャーテ

イズム』と『反穀物法同盟』『商学論

究』第一八号

一九四二年 三月  
関西学院高等商業学部教授辞任

四月  
上海東亜同文書院大学教授就任

一九四二年 五月  
経済学博士号取得（東京商科大学）

一九四三年 四月  
『英国自由貿易運動史』（日本評論社）

二月  
学長矢田七太郎辞任により、臨時学長

代理に就任（一四四年二月）

一九四五年 一〇月 二日  
上海で逝去。現在、大吉会有志を中心

# 【注】

（1）前田正治「序文」『柴田文庫目録』（関西学院大学図書館  
特殊文庫目録第三輯）一九七二。

（2）後に指摘するように北野が留学したのは、昭和二年では  
なく、昭和三年である。帰国の日時は現在のところ確定  
できていない。その誤りは武藤誠「学生の純真さを愛す  
続ける恩師の墓参り」から生じたものと推測される。教  
え子の小国次郎は「先生は昭和三年からロンドンへ留学  
され」と正しく表記している（『北野大吉先生を偲ぶ』五  
七頁）。

（3）この柴田文庫については、以下の文献がある。

- （1）『開校四十年記念 関西学院史』一九三〇
- （2）『関西学院高等商業学部二十年史』一九三二
- （3）五島茂「序文」『ロバート・オウエン著作史』一九三二

に建立されたお墓は西宮市の仁川国際  
霊園にあり、毎年有志による墓参が行  
われている。  
墓標には「我は道なり、真実なり、  
生命なり」（ヨハネ伝一四／六）と刻  
まれている。

(4) 大道安次郎「柴田文庫について」『論叢』第六号（関西学院短期大学商科）一九五二

(5) 縄田栄次郎「柴田文庫の分類について」『論叢』第六号（関西学院短期大学商科）一九五二

(6) 経済学史学会『日本における経済学史研究十年の歩み』一九六一

(7) 久保芳和「柴田文庫について」『時計台』関西学院大学図書館報、No 1、一九七一

(8) 白井厚「関西学院大学柴田文庫のこと」日本生活協同組合連合会『生協運動』一九七一

(4) 堀経夫「柴田文庫と北野教授について」『柴田文庫目録』（関西学院大学図書館特殊文庫目録第三輯）。

(5) 北野大吉「はしがき」『婦人運動の開祖メリー・ウォルストンクラフト』。

(6) 武藤誠「学生の純真さを愛す 続ける恩師の墓参り」『北野大吉先生を偲ぶ』三頁。

武藤は「浜寺で行われる全国高専大学相撲大会」と記述しているが、「堺大浜で行われる全国学生相撲選手権大会」の誤りであるので、訂正の上引用した。

(7) 大学史編纂委員会『東亜同文書院大学史——創立八十周年記念誌——』一九八二年、二七一頁。

(8) 戸籍謄本（内山富士子氏提供）。

(9) 内山富士子（北野大吉の娘）からの私信によれば、北野の妻トシ（兄の安間徳勝は東京商大で北野の同級生）は「大吉は本を買って三ヶ月ほどで帰国した」と話していたという。また、トシは北野の逝去後単身で引き揚げ、唄野政一（トシの妹静江の夫で高等商業学部一九三〇年卒業、相撲部）宅、木村正春（相撲部、現関西学院同窓会会長）宅などで一時逗留したという。さらにこの私信によれば「北野の長男禎助は、東京で中学校を出た後、関西学院大学予科入学、啓明寮へ入寮。学徒出陣（姫路）で満州を経て内地防衛のため熊本へ。終戦後復学し、一九四六年九月商経学部経済学科卒業。妹富士子は東京で女学校を卒業。一九四七年東京女子大学卒業後、一九五一年結婚した」という。なお、禎助は青木倫太郎の研究演習に所属していた。

(10) 「北野大吉氏著『ロバートオーウェン』」『関西学院新聞』第二八号、一九二七年五月三十日。大石兵太郎「北野教授著『メリー・ウォルストンクラフト』を読む」『関西学院新聞』第六一号、一九三一年二月二十日。なお、「北野教授著『メリー・ウォルストンクラフトの研究』」（『関西学院新聞』第五九号、一九三〇年二月二十日）を参照。

(11) この記念号所収論文は、新村出「モリスを憶ふ」、志賀勝

「『地上楽園』のモリス」、寿岳文章「書物工芸家としてのモリス」、竹友藻風「芸匠モリス」、富田文雄「文献より見たる日本に於けるモリス」、富田文雄編「日本モリス文献目録」、荻野目博編「モリス年表」であり、執筆者に関西学院関係者が多い。出版は神戸の川瀬日進堂書店で、装幀は「モリス好み」とされている（『関西学院新聞』第一〇六号）。

# 【付記】

『関西学院新聞』には以下の資料が掲載されている。

「暑中休暇 私としては、夏休みの利用法は運動第一、勉強第二であります」第十一号、一九二四年六月二五日。

「講演会演題…金権下の芸術、中世主義者の機械観」第十五号、一九二五年十月二十日。

「オーエン研究で渡欧する北野教授」第三四号、一九二八年四月三十日。

「在欧米の教授諸氏は」第三六号、一九二八年十月一日。

# 【文献】

①「履歴書」（大正二二年五月二五日）「昭和六年五月以降教員採用申請開申並解職開申等級」へ学院史編纂室資料番号AB—4—5）。

②堀経夫「柴田文庫と北野教授について」『柴田文庫目録』（関西学院大学図書館特殊文庫目録第三輯）一九七二。

③「北野大吉教授 著書・訳書・論文一覽」『柴田文庫目録』。

④武藤誠「学生の純真さを愛す 続ける恩師の墓参り」『K・Gジャーナル』第二六号、一九七九年十月（⑥に採録）。

⑤井上琢智「フェミニズム研究と関西学院—北野大吉のウルストンクラフト研究」『クレセント』（関西学院）、第二二巻第一号、一九八八（⑥に採録）。

⑥大吉会「北野大吉先生を偲ぶ」一九九二（非売品）。

⑦大学史編纂委員会『東亜同文書院大学史—創立八十周年記念誌—』一九八二（非売品）。

（井上 琢智）